

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4000496号

(P4000496)

(45) 発行日 平成19年10月31日(2007.10.31)

(24) 登録日 平成19年8月24日(2007.8.24)

(51) Int. Cl. F I
E O 4 D 1/30 (2006.01) E O 4 D 1/30 G O 1 B
E O 4 D 3/40 (2006.01) E O 4 D 3/40 G

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号	特願平10-117740	(73) 特許権者	000181963
(22) 出願日	平成10年3月23日(1998.3.23)		若井産業株式会社
(65) 公開番号	特開平11-270061		大阪府東大阪市森河内西1丁目6番30号
(43) 公開日	平成11年10月5日(1999.10.5)	(72) 発明者	橋本 岳史
審査請求日	平成17年1月6日(2005.1.6)		大阪府東大阪市森河内西1-6-30 若井産業株式会社内
		審査官	油原 博
		(56) 参考文献	特開平11-044056(JP, A) 実開昭57-021712(JP, U) 実開昭57-021710(JP, U) 特開平09-324499(JP, A) 実公平04-028327(JP, Y2)
			最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 屋根用棟受け金具

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

1枚の板を折り曲げてなり、上方に開放し、釘、ねじで棟木を固定する為の貫通穴を設けたU字型の棟木受け部と前記U字型の棟木受け部の底面のほぼ中心部から下方に鉛直に延びた板状の胴部を設け、前記胴部のU字型の棟木受け部の反対側の端から左右に沿設した板状の翼状取付け座部とからなる屋根用棟金具において、前記翼状取付け座部は前記棟受け部と反対側の胴部の端から左右の軒先方向に延びる第一の座部と、野地板に締結される貫通穴を一ヶ所以上設けた第二の座部からなり、前記胴部と前記第一の座部にのみまたがる補強用リブを有し、且つ前記第一の座部と前記第二の座部が、屋根勾配にあわせ微調整させるための屈折部によって、つながっていることを特徴とする屋根用受け金具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術】

本発明は住宅建築における屋根の棟部を構成する金具に関して、特に棟木を保持する金具に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来の住宅の屋根における頂部となる棟部の構造は幅の狭い板材が軒先から連続して打ち付けられて形成された下地と瓦から成る屋根の頂部に土、漆喰等を介して瓦が積み上げられ盛り上げられて構成された棟が一般的であったが施工性の向上や強度の向上の為、頂部

に所定の高さを有し、下部に左右に延びる翼状の取付け座部を野地板の上面にねじや釘で締結する実公平４－２８３２７等の金属製の金具を用いて盛り上げられた棟を構成する方法があった。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】

金具の胴部は平板から構成されているため、平板の側面に風等の外力を受けた場合、胴部から翼状取付け座部にまたがる沿接部を支点として倒れやすい構造という欠点があった。またその為、胴部から翼状取付け座部にかけて補強用リブを設けることが一般的であった。

しかしながら前記実公平４－２８３２７金具には次のような欠点があった。一般に屋根勾配は常に一定しておらず、設定されている金具の沿接部の角度とは必ずしも合致しない。その為、沿接部の角度を屋根勾配にあわせ調整する必要があった。

しかし沿接部上には補強用リブが設けられている為、曲がりにくく角度調整が困難であった。また角度調整したとしても角度調整作業により金具の沿接部及び補強用リブに局部的な金属疲労を起こすし、またこの金具を脆くすることがあった。

【０００４】

そこで、屋根勾配にあわせ翼状取付け座部の角度を自由に調整でき、さらに風などによって金具本体を倒そうとする力への反発力が強く、強固に棟木を支える事ができる金具を提供する事にある。

【０００５】

上記のような問題を解決する為、請求項１の発明は１枚の板を折り曲げてなり、上方に開放し、釘、ねじで棟木を固定する為の貫通穴を設けたＵ字型の棟木受け部と前記Ｕ字型の棟木受け部の底面のほぼ中心部から下方に鉛直に延びた板状の胴部を設け、前記胴部のＵ字型の棟木受け部の反対側の端から左右に沿設した板状の翼状取付け座部とからなる屋根用棟金具において、前記翼状取付け座部は前記棟受け部と反対側の胴部の端から左右の軒先方向に延びる第一の座部と、野地板に締結される貫通穴を一ヶ所以上設けた第二の座部からなり、前記胴部と前記第一の座部にのみまたがる補強用リブを有し、且つ前記第一の座部と前記第二の座部が、屋根勾配にあわせ微調整させるための屈折部によって、つながっている構成を採用したものである。

【０００６】

請求項２の発明は請求項１に記載の屋根用棟受け金具においてＵ字型の棟受け部の底面部を除く場所に棟木固定用釘、ねじ等の貫通穴を一ヶ所以上設け棟木が屋根用棟受け金具に締結できる構成を採用したものである。

【０００７】

請求項３の発明は請求項１、請求項２に記載の屋根用棟受け金具において左右翼状取付け座部に野地板と締結する為の貫通穴を一ヶ所以上設け屋根用棟受け金具が野地板に締結できる構成を採用したものである。

【０００８】

請求項４の発明は請求項３に記載の屋根用棟受け金具において一枚の板を形成してなる事を特徴とする構成を採用したものである。

【０００９】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施の形態を図事例と共に説明する。

【００１０】

図１に示す発明実施の形態について説明する。一枚の板を折り曲げてなる上方に開放したＵ字型の棟木受け部１には棟木締結用釘、ねじ穴８、８'があり、前記Ｕ字型の棟木受け部１の底面のほぼ中心部から下方に鉛直に延びた一枚でなる板状の胴部２を設け、前記胴部２のＵ字型の棟木受け部１の反対側の端から左右に沿接した板状の翼状取付け座部３とからなり、前記翼状取付け座部は前記棟受け部と反対側の胴部の端から左右の軒先方向に延びる第一の座部と、野地板に締結される貫通穴を一ヶ所以上設けた第二の座部からな

10

20

30

40

50

り、前記胴部 2 から第一の座部にのみまたがる補強用リブ 4 を左右に設けた屋根用棟受け金具において、前記第一の座部と前記第二の座部が、屋根勾配にあわせ微調整させるための屈折部 5、5' あるいはアール曲げ部によって、つながっている事の特徴とする屋根用棟受け金具である。

【0011】

次に実施の形態を図 2 に示す。図 2 のように屋根の勾配にあわせ第一の座部と第二の座部がつながっている部分に設けられた屈折部 5、5' を調節し、第二の座部が野地板 20 に密着できるようにする。角度調整が終了した後、第二の座部に設けられた野地板締結用釘、ねじ穴 6、6' を利用して釘、ねじ等 22 で野地板 20 との締結を行う。締結後、U 字型の棟受け部 1 に棟木 21 をはめ、棟木固定用釘、あるいはねじ穴 8 を利用して釘、ねじ 22 等で本金具と棟木 21 の締結を行う。このように U 字型棟木受け部 1 を介して野地板 20 へかかる荷重は胴部 2 から調節されていない沿接部上 7 の補強用リブ 4 を介して第一の座部に伝わる。第一の座部と第二の座部がつながっている部分に設けられた屈折部 5、5' は互いに相反する方向で野地板 20 に締結されており、胴部 2 にかかる荷重を 2 ヶ所の屈折部 5、5' にて分担して支持する。さらに沿接部 7 と屈折部 5、5' にて構成される三角形の形状にて沿接部 7 から胴部 2 にかけて極めて倒れにくくなり、棟木や棟瓦の自重や胴部を倒そうとする外力に対して高い抵抗力を持って野地板 20 に締結する事ができる。

10

【0012】

図 3 に示す実施例のように 1 枚の板を U 字型棟受け部 1 と翼状取付け座部 3 及び沿接部 7 においてほぼ二分するように分離させ折り曲げて作成しても良い。

20

【0013】

【発明の効果】

以上のように、この発明によると簡単に野地板に締結できる構造でかつ棟受け金具に、棟木、棟瓦の自重あるいは風などによる金具を倒そうとする外力が働いても倒壊しにくいという効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の構成を示す斜視図である。

【図 2】本発明の実施形態を示す斜視図である。

【図 3】本発明の他の構成を示す斜視図である。

30

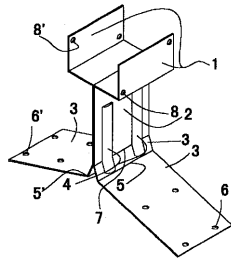
【図 4】従来の構成を示す斜視図である。

【符号の説明】

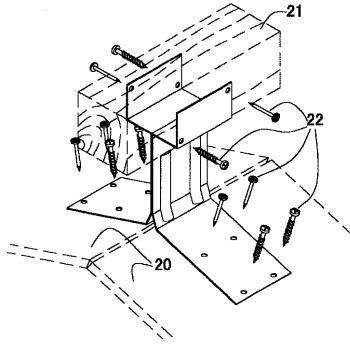
- 1 U 字型棟受け部
- 2 胴部
- 3 翼状取付け座部
- 4 補強用リブ
- 5 屈折部
- 5' 屈折部
- 6 野地板締結用釘、ねじ穴
- 6' 野地板締結用釘、ねじ穴
- 7 沿接部
- 8 棟木固定用釘、ねじ穴
- 8' 棟木固定用釘、ねじ穴
- 20 野地板
- 21 棟木
- 22 釘、ねじ

40

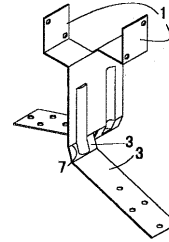
【図 1】



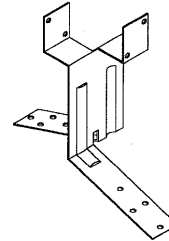
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

E04D 1/30

E04D 1/34

E04D 3/40